



女性のまなざしでしなやかな社会を

# WE

特定非営利活動法人  
ウィメンズアイ

2021年度活動報告書・決算報告書  
2021年6月～2022年5月

# 2021.6-2022.5

# シングルマザー調査プロジェクト

2020年8月から1年間、認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ、ジェンダーや子どもの貧困を専門とする研究者たちと共に行ってきたこのプロジェクトでは、毎月約500名のシングルマザーを対象にコロナ禍における就労や生活状況についてのアンケート調査（パネル調査）を行ってきました。

\*この活動には、だいじょうぶだよ基金、CHANEL財団、WAN基金の助成とキャピタル・インターナショナル株式会社からのご寄付をいただきました

シングルマザーの困窮は新型コロナウイルスの流行が社会的脆弱層に最も過重な困難をもたらしたことをきっかけに注目されましたが、以前から正確な状況が明確化されず、必要な支援の拡充が遅れてきた分野です。成長期の子どもの体重が減るケースがあるというショッキングな事実が知られることになった一方、役所窓口に対して「相談できる」と思わないと回答した人が6割超、「助けてくれる」と思わないと回答した人は7割超に上るなどの結果が見られました。

今回のプロジェクトの調査結果は、記者会見を経てひとり親家庭への一時給付金支給につながったり、厚生労働省の関連資料の中で児童手当申請時にプライバシーに踏み込んだ不要な書類の提出を義務付けないようにという旨の記載がされたり、一定の成果を生みました。しかし、ひとり親家庭を取り巻く状況そのものは改善されていません。社会的な認知もまだまだです。2022年10月に中央大学経済学部小尾ゼミにてゲスト講師として、ウィの五十嵐、石本の2名が報告を行ったところ、学生からは「7割の母子世帯が養育費を受け取っていないことに衝撃を受けた」「平均収入が非常に少ない」など驚きの声が寄せられました。

2021年7月末に当初の予定通りパネル調査は終了。調査の意義を各方面から支持していただいたこともあり、終了予定の2022年7月末以降は調査の集計をもとに課題別レポートの制作、分析、記者会見などの形でプロジェクトを継続しました。成果はネット上に公開し、研究者や社会活動家、ジャーナリストたちにとって貴重な資料として利用されています。

—未来へつなぐ—シングルマザー調査プロジェクト  
[https://note.com/single\\_mama\\_jp](https://note.com/single_mama_jp)



【課題別レポート】傷つく窓口—児童扶養手当の現況届の実態と改善要望（2021年7月5日発表）より。役所の児童扶養手当の窓口での不快な思いから「窓口ハラスメント=マドハラ」の実態が明らかに



【課題別レポート】シングルマザーの居住貧困—コロナ禍の「ステイホーム」の現実（2021年8月13日発表）より。高い住居費負担が家計を圧迫している深刻度が見て取れます



## ● データ

- \*パネル調査 2020年8月～2021年7月（毎月）
- \*継続調査 コロナ禍のひとり親調査プロジェクト（2021年12月～）
- \*オンライン記者発表、会見
- 7/5 傷つく窓口—児童扶養手当の現況届の実態と改善要望 登壇者：赤石千衣子（しんぐるまざあず・ふぉーらむ理事長）、湯澤直美（立教大学教授）
- 8/16 シングルマザーの居住貧困—コロナ禍の「ステイホーム」の現実 司会：五十嵐光（ウィメンズアイ）
- 10/13 コロナ禍におけるひとり親世帯の子どもの状況 英語版発表
- 12/27 記者会見 長期化するコロナ禍におけるひとり親の就労・生活調査～1690人の実態調査・速報
- 2/23 子どもの義務教育と高校進学にかかるお金—就学援助制度の現状と課題
- 4/27 長期化するコロナ禍におけるひとり親の就労・生活調査「第6波による影響—働けず減収・進学困難」
- \*寄稿
  - ・ジェンダー研究第24号（通巻41号）（お茶の水女子大学ジェンダー研究所発行）執筆。タイトル「コロナ禍のシングルマザー調査プロジェクト：1800人の実態調査から見えてきたこと」五十嵐光、石本めぐみ <https://www2.igs.ocha.ac.jp/gender/gender-24-2/>

## 調査活動 気仙沼

### 気仙沼市 ひとり親調査を開始

2021年7月からNPO法人「人間の安全保障フォーラム」の【誰一人取り残されない気仙沼】と協働で、WE気仙沼プロジェクトの一環として気仙沼市ひとり親調査を開始。気仙沼市保険福祉部子ども家庭課の全面的なバックアップのもと、3件のパイロット版ヒアリングを経て調査表を作成。調査対象の569世帯に調査票を2022年3月に発送しました。

# ローカル女子と未来をひらくプロジェクト ～草の根女性のエンパワーメント

東北被災3県をはじめとしたローカルで草の根の活動をする若年層の女性たち（ロカ女）のエンパワーメントは3年目を実施。インタビュー掲載を中心としたウェブメディアを公開したほか、「コミュニティ・アクション」をはじめ公募にて実施しました。

\*これらの活動にはチャネル財団の助成をいただきました。

## 「COMADO」～ローカルで活動する女性たちの声を発信

7月にウェブメディア「COMADO」を公開。岩手・宮城・福島の地域で活動する20代～40代女性たちの声を届ける「ローカル女子100人インタビュー」に計50本の記事を掲載しました。

インタビュー対象者は、過去の「グラスルーツ・アカデミー東北」参加者や、その紹介者などが中心。取材後に「言葉にすることで、自分がこういうことを考えているのだと再確認できた」「自己紹介がわりになる記事を作ってもらえてありがたい」などのフィードバックがありました。また、企画の意図を汲み取って「COMADO」には他メディアではあまり話したことがない困難や病気、悩み、それをどう乗り越えたのかなどの本音を語っており、同じローカルに暮らす読者からの信頼を集めています。インタビュー対象者が記事をシェアしたSNSなどに、「思いの根っこをより深く知ることができた」といった共感の声が現れています。

制作スタッフも、経験豊富なプロのライターに加えて、ローカルで取材・執筆・撮影などを通じて情報発信の活動を始めている東北のメンバーを徐々に増やすことができました。



南三陸町・中村未来さん。空き家、耕作放棄地、使われなくなってしまったものに手を加え未来につなぐ。写真：佐竹歩美（大崎市）



陸前高田市・板林恵さん。飛び込んだから自分の価値に気づいた。今度は女性の生き方を応援する側に。写真：吉田ルミ子（陸前高田市）

## 少額助成

～「コミュニティ・アクション」を公募にて実施

地域をよくする活動を支援する、少額の伴走型助成事業が「コミュニティ・アクション」。対象者である岩手・宮城・福島の応募者全員に、アイデアが事業として実現するためのサポートを目的としたオンライン相談・面談を行い、助成枠の審査に通過した場合は、10万円までの助成金を支給し、事業計画のブラッシュアップ、運営管理、実行、報告書にまとめ、事業完了までを見届けています。今年度は5名が助成を受け、各々の事業を完了。推薦枠に加え今回初めて公募を行ったことで、これまで以上にウィと東北の様々な地域での活動につながりを作ることができました。各実行者たちの地元協力者からの評価も高く、事業の実行を通じて各人が自分の成長を実感していました。

### ●データ

実施事業の内容は以下

- ・コスモス小さなエコマルシェ（岩手県釜石市）
- ・大人の学び舎29楽校【暮らしとアートと科学】（福島県会津若松市）
- ・アーティスト・イン・リサーチ気仙沼（宮城県気仙沼市）
- ・ドゥーラカフェ・ドゥーラサロン（岩手県釜石市）
- ・商店街内部の動画プロジェクト（宮城県蔵王町）



事業完了後には、Zoomを用いての振り返りのシェア会を実施

## オンライン講座、オンラインセッション

### ●データ

- 7/12 オンライントークサロン 田浦佐知子（ウィメンズアイ理事）参加26名
- 6/22 オトナ女子のすこやか講座オンラインおしゃべり会 参加6名
- 9/17 オトナ女子のすこやかづくりvol.6 ワタシのトリセツ ～女性に必要な基礎知識編～講師：高橋孝予（助産師）参加8名

## ブックレット「ローカル女子と未来をひらく」 英語版リリース

東日本大震災から10年を迎えたことを機会に、前身団体からこれまでに至る活動を記録したブックレットを2020年度末に400部発行しました。今年度は、このブックレットの英語版をShaping Futures with Local Women



with Local Womenを制作（オンライン版）。日本語版の翻訳に加えて、新たに2本のスペシャルインタビュー記事、映画「TSUNAMI LADIES」の紹介記事を加えています。

\*この事業には米日財団の助成をいただきました

### ●データ

英語版タイトル：Shaping Futures with Local Women (2022/10/11発行)

URL：[https://womenseye.net/wp02/wp-content/uploads/2022/12/booklet\\_E02.pdf](https://womenseye.net/wp02/wp-content/uploads/2022/12/booklet_E02.pdf)

翻訳：アンドリュース・ルイス・リトルジョン

スペシャルインタビュー：スリ・H・ソフヤン（国際NGOホワイロウコミッション シニア・プログラムアドミニストレーター）

ルーシー・ジョーンズ博士（地震学者）

# 女性と女の子の相談窓口

## ～みやぎの女性つながりサポート型支援

COVID-19の感染拡大が影響し、さまざまな困難や不安を抱える女性や女の子が社会とのきずな・つながりを回復できるよう、相談窓口を設けたうえ、かわら版発行、癒しイベントなどの事業を行いました。

\*宮城県「みやぎの女性つながりサポート型支援事業」の受託事業として実施しました

ウィの南三陸事務所では、2017年秋から宮城県北部の女性を対象とした「仕事の悩み相談窓口」を開設してきましたが、コロナ禍が長引くにつれ様々な悩みと困難を抱え込んでしまう女性が増えるようになりました。それは全国的にも女性の自殺率の増加という形で顕現し、さらに2020～21年は男女とも20代以下の自殺者が増加したことも分かっています。(2022年版自殺対策白書)

そうした社会背景から宮城県は「みやぎの女性つながりサポート型支援事業」を開始。ウィはこの宮城県北部地区の事業を受託し、7月21日から「女性と女の子のための相談窓口」としてどんな悩みも受け付けるようにしたところ、これまでの倍以上の深刻な相談が寄せられるようになりました。「この町で(悩みを)話せる場がないと思っていたので、秘密を守って話を聞いてもらえる場所があることで救われました」(Hさん)



ポスター、チラシなどで相談窓口の周知活動に努めました



暗くて寒い冬、気軽に来られる「ほっとスペース」を開催



にじのわ助産院の助産師さんの無料相談日も



ウィの相談員が心と体のケアについて伝えるB5両面の情報発信チラシ

アウトリーチ型支援として、気仙沼ハローワーク、登米保健所での相談会、助産師による相談会も実施。また、相談窓口への電話はハードルが高い方のために、ちょっとした楽しみのある場に相談員が同席する「女性のためのほっとスペース」イベントも開催。「一人でいると孤独なので話せて楽しかった」「子育てと仕事の疲れをすこしほぐすことができた」などの声が聞かれました。

初年度でもあり地元での周知にまでつなげられていないことが課題ですが、地元団体とも連携しながら女性たちを支える体制づくりができました。

### ●データ

対象地域：宮城県気仙沼市、南三陸町、登米市  
 実施体制：相談員として国家資格キャリアコンサルタント1名、産業カウンセラー2名(以上、ウイスタッフ)  
 協力団体：にじのわ助産院  
 連携団体：気仙沼市社会福祉協議会、ひありんく気仙沼、登米市社会福祉協議会、そ・えーる登米、南三陸町社会福祉協議会、パーソナルサポートセンター

### ◆相談窓口「女性と女の子のための相談窓口」

相談件数計60件  
 ・電話相談(平日・土曜10:00-18:00)、メール相談、対面相談  
 ・出張相談

気仙沼ハローワーク内 月1回・第3木曜日(10月～2月)相談4件

登米保健所内 月1回・第2火曜日(10月～2月)相談4件

・助産師による相談会

南三陸：ウイメンズアイ事務所内 月1回(11月～12月)相談2件、相談に対する助言7件

### ◆かわら版「yukimichiだより」

計5回×500部発行、子育て支援センター、学童施設、スーパー、薬局、カフェなど47か所に設置

### ◆イベント開催

気軽に話せる「女性のためのほっとスペース」

11/30 気仙沼：ハンドマッサージ 参加者1名 相談員3名

12/9 登米：ハンドマッサージ 参加者7名 相談員3名

2/7 南三陸&オンライン：夫婦・パートナーの悩みお話し会 講師：竹内小百合(ミライフ代表) 参加者3名

◆生活困窮者への生理用品配布 のべ21名

## ネットワーク 宮城

## 宮城県女性活躍ネットワーク事業

宮城県内における男女共同参画の理解と理念の浸透を図りその実現を目指す表題の事業に参画しています。2021年度は、「アンコンシャスバイアス」をテーマにしたセミナーを実施。セミナーの後は、宮城県北地域で活動する女性たちの交流会を開催しました。



### ●データ

対象地域：宮城県気仙沼市、南三陸町、登米市

10/21 アンコンシャスバイアス～無意識の偏見について学ぼう  
 講師：杉本美晴(一社)アンコンシャスバイアス研究所 理事

共催：NPO法人すくすく保育研究所  
 開催場所：登米市 登米祝祭劇場  
 場 参加者17名

# アクティブ・ウーマンズ・カレッジ第5期

気仙沼市の委託を受け、チャレンジしたい女性の一步を応援する連続講座「アクティブ・ウーマンズ・カレッジ」の第5期を初めて企画・運営しました。コロナ禍による不安な状況下にも関わらず定員を超える応募があり、市役所職員と話し合いながら安全・円滑な運営を進められたことは大きな成果でした。

ウィのこれまでのエンパワーメント講座の経験を活かし、参加者たちが自分ごととしてコミットするグループワーク、ワークショップ形式を中心としたプログラムを企画しました。21名の女性たちは6回の連続講座を通じて、参加者同士、また、地域の先輩から学び、自分の思いを伝える言葉を磨きました。そこから気仙沼でのアクションプランを考え、伝える手段となる「名刺」を制作。修了式では緊張しながらも、気仙沼市長に短いプレゼンをしながら名刺を手渡ししました。受講生たちは、小さく始める勇気が湧いたと語り、それぞれの自信を深めていました。講座内容の評価は高く、次年度も同様の講座開催を行うこととなりました。

前年度まで若い女性の参加者集めが難しかったカレッジですが、今年度は全講座を通じて講座中の無料託児を実施したことで、乳幼児の母親層でも積極的に参加することができました。また、地元気仙沼の女性たちが起業した団体に出張託児を委託したことから、広報を通じてこうした子育て支援の資源が広く知られることとなりました。



今期、修了者のみなさん。コロナ禍中により日程変更があったり、オンライン併用になったりと不安定な状況のなか、一緒に完走した仲間たちです。

## ●データ

実施期間：2021年10月～2022年3月

全6回連続講座 各回120分 (10:00-12:00)

対象者：18歳～40代の女性で市内在住の方または市内に通勤・通学をしている方

受講者数：21名

受講料：無料

託児：無料、事前申し込み制

託児実施団体：(一社)おりがみ(気仙沼)

### 第1回 10/24 (日)

「女性の一步を応援する連続講座」講師：石本めぐみ (NPO法人ウィメンズアイ代表) [開講式、オリエンテーション、チームビルディング]

\*参加者14人、託児13人

### 第2回 11/7 (日)

「先輩から学ぶ、はじめての一步の踏み出し方～好き・得意を地域で活かす～」

講師：菅原理香 (aqua labo kesenuma主宰)、尾形綾美 (日用品と喫茶ハチワレ堂オーナー) [セミナー、ワークショップ]

\*参加者18人、託児15人

### 第3回 11/28 (日)

「地域の課題に目を向ける～自分ごと化からはじまる活動～」

講師：小野寺愛 (スローフード三浦半島代表/一般社団法人そっか共同代表) [セミナー (オンライン登壇)、グループワーク]

\*参加者10人、託児9人

### 第4回 12/12 (日)

「自分らしさ発見+自分の軸を探求～beの肩書きワークショップ～」

講師：栗林美知子 (NPO法人ウィメンズアイ南三陸所長、ワークショップデザイナー) [ワークショップ]

\*参加者16人、託児11人 (後日、補講を2回実施、受講生21名全員が受講)

### 第5回 2/27 (日)

「自分を伝えやすくなる名刺と私のアクションプランづくり」講師：鈴木歩 (デザイナー、ベンシー代表) 加藤尚 (デザイナー、ベンシー) [ワークショップ (オンラインデザイン相談会開催)]

\*参加者21人、託児3人

### 第6回 3/26 (日) 9:45-12:00

「小さな一步～わたしのアイデアが地域をちょっぴり素敵にする～」講師：石本めぐみ (NPO法人ウィメンズアイ代表) [グループワーク、名刺交換会、修了式]

\*参加者14人、託児10人



やさしい雰囲気のアート、デザインは気仙沼在住デザイナーの白田亜悠さん



beの肩書きワークショップ、参加者同士の対話ですむ



グループワークを通して、アイデアが徐々に形になっていきます



最終日には、市長から一人一人に修了証が手渡されました



(一社)おりがみの出張託児サービスでママたちも安心して参加

# 南三陸町でのコミュニティ活動と地域づくり

COVID-19の影響を最も受けたのが対面の機会が多い地域活動でしたが、感染対策をとりながら、地域でのつながりをできる限り作り続けました。

## 高台出張マルシェ「小さなたがい市」

復興公営住宅や高台移転後の住宅など買い物が不便な住民向けに、女性たちによる高台出張マルシェ「小さなたがい市」を、ウィメンズアイ、社協、地元出店者たちによる実行委員会形式で実施。ウィが助成金で開始した事業でしたが、実行委員会の自主運営によって地域に根付いた活動となり、特に地域に暮らすシニアたちにとって楽しみな外出と交流の機会となっています。



共に運営する、社協メンバー、出店者のみなさんと記念撮影

- データ 6/18 志津川西復興住宅第二集会所 出店者7組、来場者数60名  
7/2 歌津・伊里前復興住宅集会所 出店者7組、来場者数77名  
7/16 歌津・名足集会所前 出店者5組、来場者数40名  
9/17 戸倉・沖田集会所前 出店者9組、来場者数162名

- 10/15 志津川・なかよし無人産直 出展者8組、来場者数133人  
11/5 歌津・港親義会館 出店者8組、来場者数71名  
4/21 南三陸町社会福祉協議会結の里 出店者8組、来場者数126名  
5/19 入谷 大船地区 出店者7組、来場者数65名

## コミュニティ活動～集いの場づくり

コロナ禍により、さんさん館と共同で開催してきた食関連のイベントは全て中止となりました。一方、前年度から事務所をコミュニティスペースとして整備した南三陸拠点「モリドマ」はインターネット環境を利用し、ハイブリッドでのオンライントークサロン、オンライン講義などの会場となりました。また、zoomでの打ち合わせやオンライン研修の受講の場として、地域の女性たちによる利用も進みました。

\*今年度、ロート製薬有志の皆さまより拠点の整備(玄関・天井補修)にご寄付いただきました

- データ
- ・ヨガ教室 25回開催、延べ参加者97名
- ・りあんの会(刺し子サークル) 23回開催のべ131名参加



「モリドマ」を会場に地元の志津川高校情報ビジネス科の課外授業も行いました

## ひころマルシェ事務局～うみさと暮らしのラボ

コロナ禍が始まって以来初めて、感染対策を行いながら小規模のマルシェを開催。オンラインでのトークライブとのハイブリッド型とし、地元で商いをするマルシェ出店者たちのコロナ渦中での思いを語っていただく機会になりました。



紅葉がきれいなひころの里の松笠屋敷を背景にオンライン配信しました

- データ
- 11/14(日)ひころマルシェ2021秋
- 10:00-13:00 マルシェ&ピクニック 来場者数160名 出店者数11組
- 13:30-15:00 オンライン配信 トークライブ 視聴数141回
- 「カフェを続ける～コロナ禍で考えた、地域で商いすること」佐藤渉(一関SATO店主)、高橋大吾(南三陸 和 sian-cafe aimaki店主) 司会:栗林美知子(ウィ)
- 「キッチンカーで地域をまわるふたりが見つけた、しなやかに暮らすヒケツ」小澤知佳(互理 光珈琲)、大沼ほのか(自然卵のクレープfrom大沼農園)、司会:羽根田将宏(ひころマルシェ実行委員会/合同会社ビーバー)
- <https://www.youtube.com/watch?v=zzQpicJmbfA>

## 地域のパン屋さんとして歩み始めたパン・菓子工房Oui(ウィ)

ウィメンズアイのパン・菓子工房 oui (ウィ) は2022年2月に5周年を迎えました。スタッフの製パン技術も格段に向上し、県内のメディアで人気パン屋の特集に取り上げられるなど、品質と知名度が高まっています。今年度は小規模事業者持続化補助金を活用し、新たに工房のロゴをデザインし、ショップカードも制作しました。工房前の畑での小麦の栽培も恒例行事となり、2021年6月には、地元入谷小学校の6年生が授業の一環で麦刈り体験を行ない、生徒たちには、紙芝居で工房での取り組みを伝えました。生徒全員がouiのパンを食べたことがあるとのこと地域の中でも工房の役割が高まっていることを実感しました。

また、同年12月には、地元の志津川高校情報ビジネス科の2、3年生の生徒たちが課外活動「ふるさとディスカバリー」で工房を訪問。地域食材の活用、無農薬での小麦づくり、環境への配慮、シェア工房の役割など、工房が大切にしている理念についての講話を行いました。その後、2月には、工房を訪ねたグループが志津川高校まちづくり議会で町長や町職員を前に高校生議員提案として「ふるさとまるごとエコシステム企画」の発表を行っています。

- データ
- シェア工房利用登録11名(2022年3月更新時)
- 6/9 利用者共同販売会開催
- oui開業日 水、金、土
- 媒体掲載
- ・「S-Style」2021年6月号「話題のパン屋特集」に掲載
- ・「宮城のおいしいパン屋さん」(9月24日販売)に掲載
- 出店、イベント

- 11/15-21 南三陸町入谷地区での「里山ランチ」秋企画に参加
- 11/23 けせんぬまハーバーマーケット
- 1/8 パパバ・パンまつりin ララガーデン長町
- 2/28-3/6 南三陸町入谷地区での「里山ランチ」春企画に参加
- 4/29 ウクライナ応援チャリティイベント@結の里コミュニティ活動



販売カレンダーはFacebookとInstagramでお知らせしています  
<https://www.facebook.com/pankashikoubououi>  
Insta @pankashikoubououi

オンラインでのパンの購入もできます  
<https://umisatokosha.thebase.in/>

## 講演・登壇

第60回社会教育研究全国集会在今年、東日本大震災から10年を経た南三陸町で開催となりました。「ジェンダー平等な社会をつくる女性の学習分科会」では栗林がウィメンズアイのこれまでの取り組みを発表。全国のオンライン参加者とディスカッションしました。

### \*代表 石本めぐみによる登壇・講演

WIN Conference "Building Bridges & Healing the Feminine" / Regional Consultation on the Asia-Pacific Regional Plan on the Sendai Framework / 日本家政学会生活経営学部会夏季セミナー / 宮城県庁SDGs勉強会 / ほか

### \*南三陸所長 栗林美知子による登壇・講演

東洋英和女学院大学「女性のためのリーダーシップ」授業 / 山形県「女性のためのオンライン防災カフェ」 / 宮城県農村女性リーダー育成講座 / ほか

## 映画プロジェクト

ドキュメンタリー映画「TSUNAMI LADIES」  
(ウィメンズアイ制作協力)

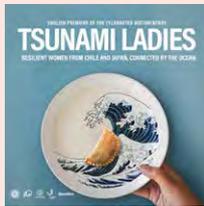
<https://www.tsunami-ladies.com/jp/>

11/5 「世界津波の日」オンライン上映会  
とパネルディスカッション

(主催: 在日本チリ大使館およびインスティテュート・セルバンテス東京)

12/4 英語版完成記念オンラインプレミア上映会とパネルディスカッション

ルーシー・ジョーンズ博士 (地震学者)、Amanda Siok 氏 (FEMA 地震プログラムマネージャー)、TSUNAMI LADIES プロデューサー、ウィメンズアイから石本が登壇。



## オンライン広報・イベント

6/20 ウィメンズアイ8周年オンラインイベント実施

3/13 ウィメンズアイオンライン活動報告会実施

<https://youtu.be/qTdjYYPKxzw>

東北の女性たちによるストーリーテリング『災害とレジリエンス』字幕付き映像を公開。 <https://www.youtube.com/watch?v=Mt9BoB0gtXc>



## ■寄稿

・2022年1月～6月、河北新報朝刊の文化面リレーエッセー「微風旋風」担当 (栗林)

## ■掲載

- ・5/25 朝日新聞朝刊「女性のリーダーシップ教育2」に気仙沼アクティブ・ウーマンズ・カレッジの取材記事掲載
- ・10/4 河北新報「NPO の杜」に相談窓口に関する取材記事掲載
- ・雑誌「うかたま」(季刊 農文協発行) 2022 春号に取材記事掲載

## チャリティプロジェクト

・建築家の隈研吾氏がイタリアのアウトドアブランド「モンチュラ」と連携してデザインした刺し子ジャケットのチャリティ売り上げ寄付先に、ウィを選んでくださいました。南三陸町歌津で開催してきた刺し子サークル「りあんの会」をヒントにしてくださいそうです。

## 2021年度決算報告(概要) 2021年6月1日～2022年5月31日

(単位:円)

<b>経常収益</b>	<b>30,814,282</b>
<b>助成金・補助金</b>	<b>16,459,452</b>
自治体からの助成金・補助金(*1)	432,000
民間からの助成金(*2)	16,027,452
<b>寄付</b>	<b>2,778,076</b>
一般寄付(*3)	1,994,846
プロジェクト指定寄付(*4)	783,230
<b>事業</b>	<b>11,526,080</b>
交流事業	49,200
人材育成事業	5,001,684
うみさと暮らしのラボ事業	42,500
広報事業	142,150
うみさと暮らしのラボ事業 (パン菓子工房事業)	6,290,546
<b>その他</b>	<b>50,674</b>

\*1 内訳: 南三陸町商工観光事業者公募型補助金

\*2 内訳: シャネル財団、米日財団、WAN基金、だいじょうぶだよ! 基金

\*3 寄付者名簿(5万円以上)はホームページにて掲載しております。

\*4 相談事業

<b>経常費用</b>	<b>31,143,049</b>
<b>プロジェクト費</b>	<b>29,494,258</b>
交流事業	21,435
人材育成事業	17,566,148
うみさと暮らしのラボ事業	21,434
うみさと暮らしのラボ事業 (パン菓子工房事業)	9,216,238
広報事業	1,078
調査事業	2,667,925
<b>管理費</b>	<b>1,648,791</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>△328,767</b>
<b>法人税、住民税及び事業税</b>	<b>72,000</b>
<b>当期正味財産増減額</b>	<b>△400,767</b>
前期繰越正味財産額	7,456,919
次期繰越正味財産額(*5)	7,056,152

\*5 複数年度にまたがる事業へ助成金などが含まれます

# Message from Women's eye

## この1年

コロナ禍2年目となる2021年度は、わたしたちウィメンズアイを含むNPOの存在意義が問われていると感じた年でした。2020年の春から国内でも急激に広がった新型コロナウイルス感染症は、わたしたちが想像した以上に長い期間、仕事や学校、日々の暮らしに大きな影響を与え続けました。地域に暮らす誰もがマスク生活を余儀なくされ、人と会うことに不安を感じ、気を遣う日々が過ぎました。そのような難しい状況の中で、わたしたちも、孤立し不安を抱える人たちとどうつながれるのか模索が過ぎました。WEがはじめて気仙沼市から委託を受けた気仙沼アクティブ・ウーマンズ・カレッジは、東京オリンピック後のコロナ感染拡大を受けて、開講を10月に延期してスタートしました。女性が集まること、多くの子どもたちが託児で集まるリソースを可能な限り軽減し、オンライン開催も取り入れ、動画や個別補講など、創意工夫してなんとか2022年3月に無事に修了式でお祝いすることができました。コロナ禍で始めた全国のシングルマザー調査プロジェクトも、コロナ危機でもっとも取り残されがちな人たちが子どもたちに、具体的にどんな影響があるかをデータと声で可視化し、レポートにまとめ、政府に対する支援を求めるエビデンスとして活用することができました。

WEが歩みをとめないこと、WE自身が安心できる場所として存在していくことへの挑戦が過ぎました。世の中が不安でいっぱいの中こそ、どうすればやさしい世界をつくり出せるのかを、これからもみなさんと模索し続けていきます。

石本めぐみ

東日本大震災後の復興支援の経験から、地域が続いていくために女性の元気が欠かせないと気づきました。私たちの活動は皆様に支えられています。どうか、ウィメンズアイを応援してください。

### クレジット決済寄付

寄付サイトSyncableを通してお手続きいただけます。マンスリーサポーター(毎月定額寄付)、あるいは今回のみ寄付をお選びください。  
<https://womenseye.net/support>

寄付サイトGive oneから、ウィの「女性と女の子の相談窓口」への寄付ができます(寄付金控除など税制優遇対象)  
<https://giveone.net/index.html>

### 振込による寄付

右記連絡先宛に、お名前、ご連絡先、お振込予定日、領収書の宛名をご一報ください。

#### 振込口座

〈銀行の場合〉  
 ゆうちょ銀行  
 金融機関コード9900  
 店番:818  
 預金種目:普通 店名:ハ一八店(ハチイチハチ店) 口座名:特定非営利活動法人ウィメンズアイ 口座番号:1966320  
 〈郵便局からの場合〉  
 郵便振替口座:18190-19663201  
 口座名義:トクヒ)ウィメンズアイ



地域の店として定着したパン菓子工房 oui



人と会える楽しみを作っています



2021年度スタッフ。Facebookへの「いいね」が3000を超えました

## WEのビジョン

いのちと暮らしを真ん中に自分をいかし歩み続ける女性たち

## WEのミッション

- ①地域女性のエンパワーメント
  - ②地域女性をとりまく環境を手入れする
  - ③地域女性の声を内外に伝える
- (2022年10月策定)

## 特定非営利活動法人ウィメンズアイ Women's Eye

### ホームページ

<https://womenseye.net>

### Facebook

<https://www.facebook.com/Womenseye20130604/>

### Twitter

<https://twitter.com/womenseye1>

### 住所 〒988-0474

宮城県本吉郡南三陸町歌津字田表35-1  
(2023年6月1日より)

### TEL 0226-25-9517

### FAX 0226-25-9519

### メール info@womenseye.net

○2021年度末(2022年5月31日)現在  
 正会員19名

スタッフ総勢:10名 インターン:1名

事務局長 五十嵐光

### ○役員一覧

代表理事 石本めぐみ

副代表理事 橋高真佐美(弁護士)

理事 西村和代(株)カラースジャパン代表)

理事 清野浩司(中小企業診断士)

理事 塩本美紀(編集者・ライター)

理事 田島誠(認定NPO法人環境エネルギー政策研究所)

理事 工藤真弓(南三陸町 上山八幡宮 禰宜)

理事 栗林美知子

監事 成田由加里(公認会計士・税理士)

